

事業所名

POP-POP 児童発達支援

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

20日

法人（事業所）理念	子どもや保護者、職員の笑顔を繋げ、子どもたちに生きる力を育て、自立して社会へはばたくことを目指します						
支援方針	あそびからはじまり、できるところから運動へつなげる療育を中心に、個々の状況に合わせた総合的な支援を提供していきます						
営業時間	火曜日～金曜日 土・祝日	9時	30分	18時	30分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	ご家庭での生活、保育園や幼稚園などでの集団生活、そのあとにある学校生活と成長段階に応じて必要となるスキルが身につくように支援計画を立てて、子どもたちの「より良い暮らし」につながる支援を行います。 「あいさつの習慣、身支度や着替えの自立、スプーンやはしなどの生活で必要となる道具の使い方、身の回りのものを整頓するなどお片付けや生活スキルの獲得、発達状況に合わせたトイレトレーニングの実施」					
	運動・感覚	全身や手先を使うことにより、感覚からの情報を受けとり、刺激することで、体の発達を促していきます。感覚の刺激に加えて、遊びを通じた体力作りも行い、お子様の発達の基礎となる「からだ」作りをサポートします。 「とびばこ、てつぼう、マット、ボール遊び、サーキット、ラダートレーニング、ふれあい遊び、などの身体機能の基礎となる粗大運動」「道具の操作や紙を折るなどの手先を使う制作活動の微細運動」					
	認知・行動	運動支援を通して、応用行動分析（ABA）を用い、よい行動が増え定着するよう環境設定し、ポジティブサイクルで関わり支援していきます。 「子どもの特性に応じた、視覚的、聴覚的など受け取りやすい指示を理解し行動する練習を行う。積み木遊びやブロック遊びを通して、空間関係の理解を深める。大小などの比較概念、物の仲間分けなどの属性分類などの概念の形成を図る。」					
	言語 コミュニケーション	物の形や名前の理解、日常生活での日常などを一つ一つ学ぶことによって発達を促し、子どもの小さな学びを大切に、さらに大きな学びへとつながるよう「学ぶ意欲」を育みます。 「身振りや指差しなどの動作の獲得、日常生活で必要となる言語の受容と表出、絵本を読んだり聞いたりストーリーの理解や物語の楽しさを学ぶ、子どもの特性や発達段階に応じて、ひらがなや数字の読み書きの実施」					
	人間関係 社会性	様々な活動を経験し、他者と触れ合うことで、心の豊かさを育みます。子どもの発達状況に応じて、親子間や友達との関わり方、ルールと順序を守ることなど「よりよいコミュニケーションの取り方」を学びます。 「物の共有や連合遊びの基礎を獲得する物の貸し借り。ルールを守ったり、役割分担をするなど共同遊びの基礎を獲得する集団遊び。ものを見立てたりするごっこ遊び。お店や道路での過ごし方などの日常生活に必要なマナーの理解」					
家族支援	子どもの発達について共通理解を深め、子育てに不安や心配ごとがあれば都度、特性を考慮した対応策をともに考えます。また、地域生活での安心を増やしていただけるよう情報共有をしていきます。				移行支援	各児童の所属する園に対して児童の特性や発達状況などの情報共有を行う。就学を見据えた児童の評価を保護者と行い、就学に向けて安心や見通しを立てることや、必要に応じて就学先との情報共有や会議を行う。	
地域支援・地域連携	児童に関わる関係者や関係機関との連携や情報共有を行い、必要に応じて会議を行う。地域生活での困りごとを関係機関と連携し解決に向けて支援していく。				職員の質の向上	朝礼では療育や子どもの姿を振り返り職員間での情報共有を行う。事業所内や外部の安全な環境の確認。より良い支援の共有を行う。社内研修や外部研修の実施。定期的な上司との面談や振り返り。	
主な行事等	季節の行事「夏祭り、ハロウィン、クリスマス、陽だまりロードの散歩など」 外部活動や災害時への対応「ロイズなどの工場見学、札幌市民防災センターでの災害などの体験、避難訓練など」						